

ご挨拶



宮崎 陽太郎 教頭

中学五クラス体制が完成し、来春からは高校入試も若干名の募集となります。このような改革に伴い、教頭二人制(中学・高校で各一名)を敷くことになりました。高校の教頭になって、何か見方でも変わったかと聞かれることがあり、うまく即答できず困っています。

白陵は現在、創立から五十二年目を疾走していますが、最近の出来事で私の「白陵史」に一つのメルクマールになることは、昨年十一月に第四代教頭であった濱田先生が亡くなられたことです。

葬儀の場でご遺族代表として挨拶されたご子息が、ご尊父からの言葉として、「教育においては教えるべき二つのことがある。それは変わるもの(たとえば学問)と変わらざるものである」というのを披露されました。なるほど学問は変わるものだと考えさせられると同時に、未知なるものに対する一見開かれた心の中にも我執の毒を見る厳しいまなざしを感じました。その時思い出したのが第一任教頭であった川戸先生のことです。私が中学生になって寮に入ったこ

卒業生インタビュー

岡田康裕さん (29期生)



今回は六月二十二日の加古川市長選挙に当選された岡田康裕さんにお話を聞きました。現在、県内最年少の市長として、国政の経験を生かしながら市政の改革に取り組んでおられます。

■学生時代の思い出

定期考査ごとに担任の先生との面談で目標順位を決められて、毎回すごいプレッシャーと戦いながら勉強していたのを鮮明に覚えています。そして、そのテストの成績と順位がすべて貼り出され、当時は嫌で仕方がなかったことでしたが、今思えば勉強のモチベーションを高めてくれる機会になっていました。それから、勉強と言えば、当時は舞子から通学していたのですが、電車の中ではいつもA先生の単語テストの勉強をしていた気がします。欠点になると鬼のケツパンが待っていますからみんな必死でした。

また、運動会で各クラス席に立てる立体的なデコレーションを作るのに、竹



ろ、寮監長もされてしまいました。夕食の後などにちよっとしたお話をされたなかで、今でも心に残っているのが、「人間にとつて大事なことは、快眠・快便・快食の三つだけだ」というような言葉です。このような言葉はなるほどとは思いますが、その時は心の中を素通りしてしまっただけで、心には力強い言葉として蘇り、生きる指針になったことを思い出します。人それぞれ個性や時代の流れに惑わされないような言葉をシンプルに、力強いものとして教えることは実に難しいというのが、私の教員生活を振り返っての感想です。

この十年余りは高校三年生に数学を教えることが多く、今年も十一時間の授業があります。最近も授業をしていて楽しいなと思うことが増えてきました。それは単なる軽快さではなく、深く落ち着いたものであり、豊かな楽しさです。白陵で五年間(或いは二年間)培われたものが彼らの中で少しずつ熟成し、未来に向かって勇躍しようとするまにその瞬間に立ち会っているのだという喜びです。そういった生徒との出会いが何とも嬉しいものになっていくのだと思います。年齢を重ねると嬉しいことはそんなに続かないものだということがわかってきますが、このような楽しみが持てることは幸せなことです。

ラテン語のAlma Mater (アルマ・マテル)を英訳すると

Nourishing Motherとなり、そこには学校という意味はありませんが、しかし欧米でこの言葉が母校を表すという感覚は理解できるところです。自己形成に最も影響があったという、ことばでしょう。師弟一体となった学び

白陵会名簿

12月発行予定!

今年度は五年に一度の名簿発行の年にあたり前回同様、デパートに委託して、十二月発行に向けての作業が大詰めを迎えています。

会員の皆様には、この三月に調査ハガキ、名簿予約購入、名簿広告・賛助金の案内等をサラトからお送りさせていただきました。力をいただきましたこと、御礼申し上げます。

特に調査ハガキにつきましては、前回までサラトへの返信となっていました。今更には、白陵会事務局への返送に変更させていただきます。その結果、前回よりも多くの方からご返送いただきましたことを重ねて御礼申し上げます。

を会の事業として実施できることは、会員の皆様のご協力の賜物と思います。また、卒業生も一期生、四十九期生まで八四一四名となり、今後とも会員同士が相互の連絡を取り合い、つながりを保つことは、同窓会活動をさらに充実させ、発展させる基礎になると考えます。さて、毎年会員数が増えると同時に住所不明者が年々増加しています。少しでもその人数を減らすために、呼びかけ等を行っておりますが、皆様で住所不明者の方の情報をご存知でしたら、事務局までご連絡よろしくお願い申し上げます。最後にになりましたが、今回の名簿発行の件で、ご不明な点等ございましたら、白陵会事務局までお問い合わせください。また、広告でご協賛いただきました学校関係業者の皆様はこの紙面をお借りしてお礼申し上げます。

林から竹を伐採してきて、みんなワイワイ言いながら作ったのはすごくいい思い出です。あと、行事があるたびに全校生徒で草刈りがありました。確か全校生徒分の鎌が用意されていたように覚えています。そんな学校なかなかないでしょうね。

■加古川市長選挙を戦って

出馬を表明してから白陵の絆を強く感じました。加古川市在住の方だけでなく、選挙には関係のない地域の同窓生の方がたくさん応援してください、中には東京からかけつけてくださった方もおられました。ある程度の年齢になり、また、自分が自由に動ける裁量を与えられた時に、まず頼りになるのは同窓の人たちだというのは、今回の選挙だけでなく、以前からもずっと感じてきたことです。特に、この白陵の縦のつながりの強さというのは本当にすごいと思います。

■在校生へのメッセージ

大学に入った瞬間から「野放し」にされるわけで、そこで何かを身につけるには、自分で歩いて行くイメージを持たなければいけません。できたら高校時代に具体的な将来の目標を見つけておけばそのイメージも描きやすくなると思います。



す。それから、毎日勉強で大変だとは思いますが、小さくてもいいので成功を積み重ねていって自信を蓄積していくことが大事です。努力は必ずしも報われるわけではなく、なかなか結果は出ないことも多いものです。しかし、例えば、毎週の小テストなどでこまめに合格していくというような「小さな成功体験」の繰り返しが大切で、そういった体験によって積み重ねた自信が将来何か新しいことをしようとする時に勇気を与えてくれるように思います。

白陵軍団全員集合(19)

～ 白陵女子バスケットボール部OG会 ～



八月十三日水曜日に、第四回白陵女子バスケットボール部OG会が開催されました。白陵女子バスケット部は二〇〇五年に同好会として発足、二〇〇六年に中学生会、翌年には高校部が部活動に昇格した。同好会発足時は中2部活が、今では中学部21人、高校部16人という当時では考えられないほど大きく組織だった部活になりました。OGの人数も今年3人の高3をOGとして迎え、ようやく30を超えました。夏に行っているOG会も今年でやっと四回目。毎年OG全員が集まれません。できる限りのOGが日程を合わせて集まりました。今年14人集まりました。高校時代毎日一緒に汗水たらしてバスケットをした仲間がまた同じ場所に体操着でバスケットをしに集まる、これほど胸が高鳴る事はありません。お盆にも関わらずわざわざ来てくださった顧問の松本良先生と南坂先生と思いが話に花が咲いた後は、まだバスケットを続けている人もそうでない人も同じように当時を思い出しながらバスケットをし、仲間と楽しみました。

OG会の主な内容としてOG vs 現役の試合があります。例年は不思議とOGが勝つのですが今年はずいぶん逆でした。中学部には勝つたものの、高校生には完敗。試合中、今年も勝てるかなと思っていたOGのバスケットが目を覚まし、相手にプレッシャーをかけよう、こっちのペースで試合を進めよう等と具体的な指しも飛び交い、まるで高校生に戻り県大会出場をかけた試合をしているかのようになりました。高校時代の仲間とまたこんなバスケットに熱中する時間が過ぎるのは、青春を共に過ごしたからでしょうか。OG会を経て、白陵でいい仲間を持った。など改めて実感させられました。また、9年前は同好会だった白陵女バスがこんなにも頼もしく立派な部活になっている事に私達OG一同感動しました。高校生に完敗するという事はOG会が始まって以来初めてのことで、白陵女バスの今後に期待が高まります。

白陵女バスの実績は、現在中学生会は高砂市2位、高校部は東播2回戦と決して胸をはって言える戦績ではありませんが、初代からこだわり続けてきた一生懸命さ、ひたむきさ、バスケットと真摯に向き合う態度は今の現役たちも変わりません。メンバーは変わってもその姿勢が「伝統」として受け継がれている、そのことに喜びを感じました。私たちの時にはなかった伝統、それが今形になろうとしている。白陵女バスOGが戻る場所がここにはあるんだ、と嬉しく、また目頭が熱くなりました。

まだまだ多くの卒業生の方はご存知ではないであろう新参者の白陵女バスですが、活躍している野球部や化学部のように一生懸命頑張っているOGはこれからもずっと応援し続けたいと思える一日でした。

Facebookでのつながりが、一気に全体をまとめてくれました!(^_^)v

在校生

活動報告

第四十六回

国際化学オリンピック

福永 隼也君(高三)
正田浩一朗君(高三)

前回の会報で福永君、正田君が第四十五回国際化学オリンピッククロシア大会で銀メダルを獲得して、インタビュースせていただきましたが、今年のオリンピックで金メダル獲得を目標に、昨年の予選から再挑戦。再び日本代表に選出され、七月二十日から二十九日まで、ベトナム・ハノイで開催されました第四十六回国際化学オリンピックに出場しました。今回は七十五の国と地域から二九一名が参加し、福永君が金メダル、正田君が銀メダルを獲得しました。

近年、中国・韓国等が金メダル獲得のために、国を挙げて力を入れるなど、諸外国の参加メンバーのレベルも年々上がっている中で、二年連続のメダル獲得は大変素晴らしい結果と言えます。

これで本校は化学オリンピック

クでの通算メダル獲得数が六個となり、現在国内で一位タイとなっています。

今後日本代表に選出される白陵生が出てくることを期待します。

全日本高校・大学生書道展

綿 寛子さん(高三)

第十九回全日本高校・大学生書道展が開催され、応募数一〇九六〇点の中から、綿さんの作品が大賞(五十一名選出)に入賞しました。兵庫県内の大賞受賞者は四名でした。中国の詩人・高青邱の漢詩を書き上げ、受験勉強に専念する前に、記念のつもりで大作に挑戦し、入賞はビックリだったようです。大学進学後に新たな力作が期待できそうです。



第七回

日本生物学オリンピック

北川健斗君(高三)

八月十六・十九日に筑波大学で開催された第七回日本生物学オリンピックで、北川君が総合成績で一位となりました。地区予選に三二六五名がエントリーし、予選を勝ち抜いた八十名の中で一位通過しました。大変素晴らしい結果となりました。

兵庫県中学総合体育大会

近畿中学校体育大会柔道競技

藤本智朗君(中三)

七月二十九・三十日に高砂総合体育館で開催された柔道県大会において、七十三kg級で二位となり、八月六日に同会場で行われた近畿大会では、同じ階級で二位となりました。現在中学三年生で、今後の更なる活躍が期待できます。

化学グランプリ2014

七月二十一日に全国六十四の会場で実施された一次選考(マークシート試験)に三四一六名の中学生が参加し、成績上位七十四名が八月二十二・二十三日、東北大学での二次選考(実験をともなう記述式試験)に挑みま

模擬国連安保理会議

八月二十六日、神戸大学で開催された模擬国連安保理会議に高二の有志五名が参加。神戸大学の社会科学系教育研究所と法学部が企画し、参加者が各国の代表者になりきり、架空のシナリオで国際交渉を体験。各国は自国の利益を守りつつ、国際平和の実現のためにこれ以上問題が深刻にならないよう安保理の対応を決めていきます。

今回は十五か国に分かれて実施され、増田力也君、近藤史佳さん、芳本真由子さんがアメリカ、児玉桂子さん、笹久保奈さん、神戸高校の生徒が中国を担当。中国とベトナムで起きた南シナ海情勢の議題に対し、中国として述べた意見が評価され、児玉さん、笹久保さんが優秀賞を受賞しました。

日頃と違う場所、他校の生徒とともに貴重な体験ができたのではと思います。

